

豊岡の野鳥とコウノトリ

橋本敏男・武田広子（豊岡市立コウノトリ文化館）

はじめに

兵庫県北部に位置する豊岡市は、中央を円山川や出石川が流れる盆地で、留鳥や旅鳥など約280種の鳥類が生息、飛来します。また、同地域では日本の野外から一度姿を消したコウノトリの野生復帰事業が行われており、野外で繁殖をしているコウノトリも生息しています。今回、コウノトリ文化館自然解説員が豊岡で観察した野鳥と、コウノトリの採食について発表しました。

豊岡の野鳥

ポスターでは、クマタカ、イヌワシ、フクロウ（幼鳥）、ヤイロチョウ、アカショウビン、カラスバト、アカガシラサギ、クロツラヘラサギ、オオチドリ、シラガホオジロ、ギンムクドリ、シロハラクイナ、アオシギ、ヤマシギ、ムラサキサギ、ウミスズメ、ウトウについて写真で紹介。



アカショウビン



ヤイロチョウ



アカアシチョウゲンボウ（オス）



アカアシチョウゲンボウ（メス）



ケアシノスリ



コウノトリ (左)、ソデグロヅル (幼鳥)



ムラサキサギ



クロツラヘラサギ

コウノトリ

コウノトリは1971年に日本の野外から消え、日本最後の生息地である兵庫県豊岡市でコウノトリの保護、増殖が行われてきました。2005年からコウノトリの野生復帰を目指して、野外への放鳥が始まり、2007年からは野外での繁殖も毎年確認されています。千葉県野田市、福井県越前市においても2015年からコウノトリの放鳥を行い、2018年2月現在、120羽を超える個体が野外で暮らしていて、全国各地に飛来しています。そして、野外個体の一部が豊岡と周辺地域に1年を通して生息しています。

【野外コウノトリの採食 (冬期)】

コウノトリは動物食で、水田や水路、河川、湿地、ため池などの水辺で主に餌を探します。豊岡では、水田は1年を通した餌場となっていて、生き物が少なくなる厳しい冬も、コウノトリは田面を歩きながら視覚と嘴の触覚を使って餌動物を探します。冬期の田面では、主にアメリカザリガニを採食しているのがビデオによる観察から確認され、その他にドジョウやミミズ類の採食も確認されました。



冬期の採食の様子（豊岡市出石町）



田面での探索の様子（2017年12月）
田面にある穴に嘴を差し入れて探索。



田面でアメリカザリガニを捕食
（2017年12月）



水路でドジョウを捕食
（2018年1月）



河川で魚類を捕食
（2017年12月）